

第3回策定委員会 意見交換記録

2005/5/18

～この計画で取り組む重要な課題、また、より身近な地域で取り組む課題について～

健康づくり

- ・健康づくりを重視したい。認知症を含む介護予防をしていかないと、今後さらに財政を圧迫する。介護予防と介護保険が逆転していることが問題。
- ・「歩け歩け運動」でガン発生が40%減というデータもある。磯子はアップダウンがある地形なので運動にはよい環境。ひとつの自治会で取り組むよりも最初から地区連や全市で取り組んでいくべき。
- ・広い地域で行うのはむしろ難しい。単位自治会でできることをやっていく。しかし高齢者主体になってしまう。若い人にはひまがない。
- ・防犯などは、警察が地域の犯罪データを公表することで意識が高まる。健康づくりについても地区によってどのような病気が多く、何人くらい死んでいるかをデータとして出せないか。啓発のための客観的なデータ、情報が足りないのでは。
- ・山と海、北と南で生活環境が違う。地区の特性を活かした介護予防、健康づくりの取り組みを進めるために、地区ごとに対策を考えるために、具体的データを把握しよう。



地区別死因は、死亡届を預かる区役所と保健所で把握している。磯子区、また連町単位でデータを公表できる。

若い人の参加

- ・健康づくりでも、町内会活動でも言えることだが、若い人の参加が少ない。時間がないことが原因。働くだけで精一杯。しかし個人の自覚を促す啓発を行政が行うべき。
- ・地域が大事であるということは、結婚したてではわからない。
- ・40代の女性は、地域を考えない。関心がない。地域に期待を持っていない。今までどおりのものをつくっても参加しない。地域に根っこを下ろせるようなことを考える。若い人が出てくるようにするにはどうしたらいいのか。
- ・若い人とのつながりは、助けることがきっかけになる。

個人情報・プライバシーの問題をどうするか

- ・市レベルの理念、目的について、これを誰がどうやるかにつける。その時に、市民参加、協働は前提になっていると思うが、市民が入って行動するとき、個人情報保護、プライバシーに踏み込まざるを得ない場合があると思う。この壁をどうするか。引きこもりの方々や重度障害者の方など声なき声を取り上げていくために、市がガイドラインを出す必要がある。
- ・この計画がどこまで踏み込めるか、策定委員会でどうするか、つながりの仕組みを作る上で人の情報が必要。
- ・民生委員も知っている範囲で登録している。知らないことがたくさんあるのが現状。認知症の方など家族がオープンにしない。
- ・今の時点では、個人情報という観点ではなく、声を拾うことを重視する。昔はちいさな地域のつながりがあり、個人情報保護法など必要のないところで暮らしていた。今は小さい地域でさえつながっていない。これをどうつないでいくか。お互いがどうつながっていくか。
- ・地域で隣近所を知っていることが大切。人を把握する調査をした。「住民は全員自治会員」とした。自治会が基準となって行動する。グループインタビューに何故自治会を入れなかったのか。
- ・できる地区とそうでない地区がある。地域ごとに事情がある。そこを見ていく。地域がどんな力になるか分科会で深める。
- ・全体で、個人情報を集めなくても、小さい地域で対処すればよい。個人情報の詳細は必要ない。自治会単位で取り組む上では大丈夫だと思う。
- ・個人情報は、どこかの時点で本人に確認すればよい。困ったことを言ってもらう。本人がコントロールできる見守り体制が必要である。医療も含むトータルケアを進める。
- ・この計画ですべてをカバーできない。ある一線からは、民生委員や支えあいなどに任せろ。

つながっていくしくみ 地域の力は人がつながることである

- ・子育ての支援で、つまずいてからの支援では遅い。問題が起きてからでは自分から出られない。地域はニーズの多いものから、できるものから順々に取り組む。地域とともにテーマがあって対応する。社会の中で1歳児のママの友達づくりを支援する。社会の中に居場所、行ける場所があれば出向いてくれる。地域の支えあいとテーマの支えあいの両方が必要。
- ・子育てを終えて磯子区に来たので、つながりがない。新しい住民はつながりにくい。仕組みは重層的につくるべき。行政も地域にアウトソーシングすることで参加しやすくなるのでは。

- ・つながりをどうつくるか。新しいもの。既存のもの。
- ・地域にあるいろいろなグループ、例えば犬の散歩仲間など、そのネットワークをいかに地域につくっていくか。
- ・地区別検討会で、町内会が弱いところなど地域の温度差を感じた。自治会の建て直しと共に重層的なネットワークを作り、磯子全体でつながっていくようにしたい。
- ・それぞれの場で、役割分担しながらつながっていく。社協のネットワーク、自治会のネットワーク、テーマのネットワーク。

「場」があれば、「人」も見つかる

- ・人材掘り起しには役所をつかう。
- ・行政で「場」の補いを。そこに行けば誰かが居る。どこかにつながる。という安心。
- ・今までと違った場所。誰がいつ行ってもよい場所があればよい。計画の中で、どこかの地域で始めてみる。
- ・自分の地域の町内会館に行かない。興味のあるものがない。「場」と共に「メニュー」がつながりをつくる。
- ・「場」は小さなものでも自分を語れる場であること
- ・空き教室をどんどん使いたい。学校は地域に開くといいながら他人が入ることを嫌う。空き教室の利用を考える上でもその実態を把握したい。



教育委員会で空き教室のデータは出ている。「場」の検討の情報として公開する。

*初めての町内会館

町内会とは別のゴミ出しのグループで町内会館を使った。顔つなぎになった。ゴミネットの問題では男性が参加し、今後釣りに行く話などがでた。引きこもりがちな外国人のお嫁さんも、次のマナーの話し合い・お茶会に連れてきてほしい。